

令和3年度 第2回食育推進部会（報告）

- 1 日時 令和3年9月24日（金）14:00～16:10
- 2 場所 オンライン開催（西館4階会議室）
- 3 出席 委員7名（部会長：伊達委員、委員：芦田委員、今村委員、榊委員、佐々木委員、田中委員、登里委員（50音順）※欠席 立助委員（兵庫県PTA協議会長）
8課1室：男女家庭課、消費生活課、私学教育課、地域福祉課、生活衛生課、総合農政課楽農生活室、社会教育課、体育保健課、健康増進課）

4 内容

(1) 食育推進計画（第4次）の策定について

食育推進計画（第4次）計画本文（案）への主なご意見は下記のとおり。

章	主なご意見
第1章 基本指針	・基本理念のうち、「明るい家庭」については、兵庫らしさの点からも原案どおりがよい。「明るく心地よい家庭」という文言もどうか。
第2章 実態	・兵庫県の健康寿命算出の考え方について説明書きをして欲しい。
第3章 3次評価	・5段階評価（A～E）は、各指標の進捗状況が明確となり、適切だと思う。
第4章 4次方針	・キャッチフレーズ「食で育む元気なひょうご“実践の「わ」を広げよう”」の3つの「わ」のイメージ図は分かりやすくしてよい。3つの「わ」の実現に向け、関係部署が連携を強化し、取り組んでいくことが重要である。
第5章 4次施策	・学校給食における地場産品の使用率が上がらない理由は、生産量以外にも予算面など多岐にわたる。 ・栄養教諭のさらなる配置促進についても取り組んで欲しい。 ・認証食品が身近な店舗で確実に購入できるとよい。 ・独居高齢男性では、「毎日、誰かと一緒に食事をしている」ということは希かと思う。仮にデパートに通っていた場合も週数日となる。

【今後の予定】・部会意見を踏まえて、本文修正

- ・庁内関係各課に意見照会（10月22日〆切）
- ・部会委員に意見照会（10月31日〆切）

(2) 令和3年度食育絵手紙コンクールの審査

2テーマ（①主食・主菜・副菜のそろった“おうちごはん”（全1,256作品）、②私が伝えたい食育メッセージ（全1,132作品）＝合計2,388作品）の応募があった。

各テーマについて、①庁内食育連絡部会関係各課にて選考 ⇒ ②食育推進部会委員にて選考を経て、最優秀1作品＋優秀5作品の計6作品を決定した。（6作品×2テーマ＝計12作品）

優秀作品は、①兵庫県農林漁業祭にて表彰式（10月16日（土）9:40～10:00 県立明石公園）
②三宮センター街ジュンク堂前大型スクリーンで放映（10月16日～11月16日）。

【主な意見】

(伊達部会長)

P.2 基本理念について

- ・「家庭」とは、「家族がいてこそ言えること」かなと思う。
独居が増えているため事務局案（明るい家庭を削除し、持続可能な食を追加）に同意

(芦田委員)

- ・1人でも「家庭」だと思ふ。家族には様々な形態がある。
「明るい」という文言が他自治体で使っていないのであれば、「兵庫らしさ」を出す意味でも、「明るい」はある方がよい。

(佐々木委員)

- ・「明るい」より、「心地よい」という言葉がしっくりくる。
今は、明るい家庭より、心地よい人間関係が大事だと思うので。

(芦田委員)

- ・「明るく心地よい家庭」という文言があったらよい。

(田中委員)

- ・「明るい」でいいと思う。

(榊委員) (登里委員) (今村委員)

- ・特に気にならない。広くとらえる意味での「明るい」でよい。
学校では、「家庭」「地域」をよく言うので、そのままがいいと思う。

第2章

(芦田委員)

P.14 表1 健康寿命

- ・国の健康寿命と平均寿命の差は8~10歳だが、県は2~3歳と短い。
算出方法が異なるので、表の下に説明文を加えた方がよい。

第3章 評価基準

(田中委員)

- ・以前の評価（○△）より分かりやすくいいと思う。

(伊達委員)

- ・基準の考え方は「健康日本21（第2次）」でも取り入れている。全国でも1~2割が導入。

第4章

(伊達委員)

・3つの「わ」について、国からの計画の中にも「わ」があるが、県の「わ」は県らしさの特徴を考えて出されたのか。

(芦田委員)

・ポンチ図について。3つの「わ」が混ざり合っ、食で育むになるので良いと思う。

全体的に前回(1回目)から肉付けされていて良いと思うが、これからさらに関係課とどれだけ詰めていけるかが重要なのでお願いしたい。

(芦田委員)

P.39 柱2(2)

・シニアはメタボよりフレイル対策が抽象的であるため、具体的な文言に変更して欲しい。

第5章

(榊委員)

P.50 栄養教諭によるコーディネートについて

・栄養教諭が生徒と関わる機会が少ない。1校に1人の配置では現状ない。学校給食の充実⇒県産の魚などをもっと普及し、学校給食に入れて欲しい。

(田中委員)

P.43 学校給食に必要な使用量の確保が困難について

・生産量が減少という理由だけではない、予算のこともあるので別の視点を入れてもらえたら嬉しい。

(今村委員)

・栄養教諭の配置拡充について記載してもらっていて有り難い。

(登里委員)

・認証食品料理教室。3店舗回ったが、教室を実施するために必要な食材が揃わなかった。地場産物を全て認証食品にして欲しい。

P.65 一昨日実施した男性料理教室、10人中3人が一人暮らし。

・指標として、「毎日、家族や友人と楽しく食事をする人の割合の増加」があるが、「毎日」は現実的には難しいので指標の書き方を変えてはどうか。デイベースに行っても週2日ぐらいだし。

(佐々木委員) 学校給食について

・決まったものを作るのではなく、その日、その場の状況で変えていく必要がある。臨機応変が求められるのではないか。学校給食の大事さを痛感した。